
1

ミシマユキ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

1

【Nコード】

N0849BA

【作者名】

ミシマユキ

【あらすじ】

倉越ユキは才能に恵まれていたが……

↑高校に通う倉越ユキはクラスの誰よりも美しかった。それでいて自分の美貌を鼻にかけない謙虚さも持ち合わせていた。これは非常に賤の厳しい彼女の両親の教育によるところが大きい。

学業も優秀で、ユキは学内試験で主席の座を逃したことが過去に一度もなかった。これもまた彼女の家庭教師役を務める大学教授でもある父親の能力に関係していたが、彼女はそんな優秀な父親の話題をクラスメイトの前で決して自慢しなかった。お喋りのときも進んで友人たちの聞き役に徹してきたのである。

しかし恵まれた家庭環境をユキが誇りに思わなかったのかといえば、そうではない。

彼女は謙虚であることが美德であると信じていたし、自分の美貌や才能を無闇にクラスメイトにひけらかすようなことはその美德に反する行為だった……ただそれだけのことである。

そしてこんなユキの信条は、今日まで一抹の疑問が入り込む余地すら残さぬほどに揺るぎなかった。

ところで、謙虚というものには二種類あることをご存知か？

一つは己の身分の低さや才能の乏しさを隠すための見栄っ張りな謙虚であり、もう一つは己の有り余る技量の高さを隠すための自惚れな謙虚である。ユキの場合は確実に後者であった。

彼女がクラスメイトたちの前で優雅に振舞えたのも、彼女自身が彼らの誰よりも高い位置から物事を俯瞰できているという自信からくる自惚れの域を出ない。そしてそんな彼女の自惚れは……まる

で優雅に宙を舞う一匹の美しい蝶が、自分より遙か高くを飛び交う鳥たちの存在に気づいたときのような……そんな驚愕と共に破滅を迎える危険を常に予感させていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0849ba/>

1

2012年1月1日23時48分発行